

科目名	公立文化施設論
配当年次	3 年次
開講期間	秋学期
単位数	2
担当教員	土屋 正臣(ツチヤ マサオミ)
期間・曜日・時限・教室	秋学期 金曜日 2 時限 1 3 - 2 0 1

※ ミュージアムと現代社会

授業の目的・目標 ①授業の概要：

本講義は、公立文化施設の中でも特にミュージアム（博物館・美術館）を取り上げる。近年のミュージアムは資料の収集と保存、調査研究、展示といった基本的機能に加え、市民の自己啓発支援、生活における「第3の場所」としての役割、地域アイデンティティの確立、観光振興といった幅広い役割を担っている。

【特徴①】

以上のようなミュージアムの社会的役割の拡大と地域社会との関係の変化について教員自身の公立文化施設における実務経験に基づきながら言及しつつ、文化によるまちづくりの今日的潮流を考えて行く。このことにより、総論レベルから実務レベルまでを射程に入れ、ミュージアムの実態に即した具体的な問題解決の方法を提示する能力の涵養を目指す。

【特徴②】

本授業は、受講者に複数の小グループに所属してもらい、授業の最初に小グループ内でその日の授業の該当箇所の要約を発表おこなってもらう。その後、教科書の内容を教員が適宜補足しつつ、チャットを用いたディスカッションを実施する。

②授業の目的：

ミュージアムの実態に即した具体的な問題解決の方法を提示する能力の涵養を目指す。

③修得できる力：

- ・公立文化施設に関わる基礎的な理解が可能となる【知識・理解】
- ・歴史や文化等、多領域にわたる知識や情報を組み合わせながら、公立文化施設の背景にある課題解決を目指すことができる【汎用的技能】
- ・公立文化施設が抱える課題解決を通じて、社会の一員としての自覚を持ち、社会の発展のために積極的に関与できる【態度・志向性】

④授業の到達目標：

- ・ 公立文化施設が抱える課題を歴史的な文脈を踏まえて思考できるようになる。
- ・ 社会と文化の関係について独自の見解を述べることができるようになる。

※本授業は学部ディプロマポリシーの①、④、⑧に該当する。

※本授業のナンバーは、POL216Jである。

⑤実務経験と授業内容との関連：

地方自治体における文化政策、文化財保護政策の実務経験に基づく授業を実施する。

1回の授業について、

準備学習等の指示

- ・ 予習（1時間45分）：授業で取り上げる参考書などにより、授業の大まかな流れをつかんでおくこと。次回対象となる項目については各授業の終了時に説明する。
- ・ 復習（1時間45分）：授業で取り上げた重要なポイントを中心に、ノートを見直し論点を整理すること。次回授業時に適宜内容を確認し、フィードバックを行う。課題の配布や提出を行うため、WebClass等のLMSを用います。

講義スケジュール

■ 1回目

【テーマ】 公立文化施設とは何か

【到達目標】 公立文化施設の概略について理解し、具体的な問題解決の方法を提示する能力を身につける。

【準備学習】 テキスト全体に目を通しておくこと。

【特記事項】

■ 2回目

【テーマ】 ミュージアム（博物館・美術館）とは何か

【到達目標】 調査・収集・展示の意味を理解し、具体的な問題解決の方法を提示する能力を身につける。

【準備学習】 提示する参考文献に目を通しておくこと。

【特記事項】

■ 3回目

【テーマ】 ミュージアムの歴史（1）

【到達目標】 見世物・博覧会 ミュージアムの前提となった見世物や博覧会について理解し、そこに含まれる具体的な課題解決の方法を提示できる能力を身につける。

【準備学習】 提示する参考文献に目を通しておくこと。

【特記事項】

■ 4回目

【テーマ】 ミュージアムの歴史（2）

【到達目標】デパート・史跡公園・公立ミュージアム 多様なミュージアムのあり方についての知識を習得し、そこに含まれる具体的な課題解決の方法を提示できる能力を身につける。

【準備学習】提示する参考文献に目を通しておくこと。

【特記事項】

■ 5回目

【テーマ】ミュージアムを取り巻く環境変化

【到達目標】今日のミュージアムを取り巻く環境について理解し、そこに含まれる具体的な課題解決の方法を提示できる能力を身につける。

【準備学習】テキストに該当箇所に目を通しておくこと。

【特記事項】

■ 6回目

【テーマ】ミュージアム政策の不在

【到達目標】公立ミュージアムが抱える政策上の課題とその背景について理解し、そこに含まれる具体的な問題解決の方法を提示する能力を身につける。

【準備学習】テキストに該当箇所に目を通しておくこと。

【特記事項】

■ 7回目

【テーマ】「文化の価値」とミュージアム

【到達目標】経済・社会包摂・幸福度との関連から公立ミュージアムに求められる役割について理解し、具体的な問題解決の方法を提示する能力を身につける。

【準備学習】テキストに該当箇所に目を通しておくこと。

【特記事項】

■ 8回目

【テーマ】ミュージアムの管理・運営体制

【到達目標】公立ミュージアムへの指定管理者制度導入について理解し、具体的な問題解決の方法を提示する能力を身につける。

【準備学習】テキストに該当箇所に目を通しておくこと。

【特記事項】

■ 9回目

【テーマ】地域に生きるミュージアム

【到達目標】地域における公立ミュージアムの役割について理解し、具体的な問題解決の方法を提示する能力を身につける。

【準備学習】テキストに該当箇所に目を通しておくこと。

【特記事項】

■ 10回目

【テーマ】ミュージアムの古くて新しい課題

【到達目標】 地域を記録する装置としての公立ミュージアムの役割について理解し、そこに含まれる具体的な問題解決の方法を提示する能力を身につける。

【準備学習】 テキストに該当箇所に目を通しておくこと。

【特記事項】

■ 11回目

【テーマ】 ミュージアムの運営と資金調達

【到達目標】 公立ミュージアムの自立した財政基盤の確保はどうあるべきかについて考察し、そこに含まれる具体的な問題解決の方法を提示する能力を身につける。

【準備学習】 テキストに該当箇所に目を通しておくこと。

【特記事項】

■ 12回目

【テーマ】 ミュージアムとまちづくり

【到達目標】 まちづくりの拠点としての公立ミュージアムの機能について理解し、そこに含まれる具体的な問題解決の方法を提示する能力を身につける。

【準備学習】 テキストに該当箇所に目を通しておくこと。

【特記事項】

■ 13回目

【テーマ】 ミュージアムと人々のつながり

【到達目標】 来館者の経験を豊かにするためのミュージアム運営について理解し、そこに含まれる具体的な問題解決の方法を提示する能力を身につける。

【準備学習】 テキストに該当箇所に目を通しておくこと。

【特記事項】

教科書 河島伸子・小林真理・土屋正臣（2020）『新時代のミュージアム:変わる文化政策と新たな期待』 ミネルヴァ書房

参考文献 授業時において適宜提示する。

この講義は主として、講義形式で行う。

授業方法として下記のアクティブラーニングの手法を実践する。

- 授業の方法
- ・反転授業
 - ・ディスカッション・ディベート
 - ・ICTを利用した授業内レスポンスの活用（クリッカー等）
 - ・グループワーク
 - ・プレゼンテーション

【フィードバック方法】 なお、小テスト・課題等については、複数回ごとに全体（グループ）にフィードバックを実施する。

学生のオンラインなどを含めた学修をサポートするため、下記のLMSを使用する。

- ・WebClass

成績評価方法 【評価方法】 期末試験等で評価する。
 【評価割合】 期末試験（50%）、リアクションペーパー（40%）、授業での発言（10%）
 【評価基準】 授業内容の理解度、独創性、論理性。

オフィスアワー 授業時に指示する。

居室 12号館201号室

ホームページ

その他特記事項 ・実際の施設を見学する場合もある。
 ・テキストの購入は必須である。

添付ファイル

[前画面へ戻る](#)